京 機 短 信　No.277, 2016.05.05
京都大学　京機会）　tel.& Fax. 075-383-3713
E-Mail:　jimukyoku@keikikai.jp
URL: http://www.keikikai.jp　編修責任者　久保愛三

韓国の歴史を辿る旅　(その5)

田中　庸彦（1976 卒）

ここは日本の村ではないか、と一瞬錯覚したことがあります。30 年ほど前、韓国慶州郊外の村道を歩いていた時ですが、五感に感じるすべてによって、私はそのような錯覚におそわれていました、ハングル文字を見なければ（中国では、このような感覚におそわれたことはありません)。この瞬間、日本人正しくは倭人と韓人、そして、日本文化と韓文化の強いつながりを確信していました。かつて宮崎市から北へ山中の道をドライブしているときに、予期せぬ「百済の里」なるものが突如出現し、東方の島（今の日本）各地に百済人が移り住んで来たのを再確認したことがありました。この地は、7 世紀に百済が滅んだ時に移り住んだ王族、その伝説の場所であることも後に知りました。もともとは、日本人はどこから来たのだろう、ということに深い興味をもっていて、関西周辺に韓半島由来の事跡があるのは知っていました。平安京造営の立役者の秦氏の姓 hata は、pata（韓国語で海の意）の音が変化した、という説があります。つまり、「海から来た人」という意味になります。

（地図一）
迎日湾（丸印)、虎尾串日の出公園（矢印）

私たちの訪れた「延鳥郎（ヨンオラン）と細鳥女（セオニョ）」像の立つ場所を紹介する前に、この夫婦説話の骨子に似た話は、日本の「古事記」「日本書紀」にも散見されることを示します。

都怒我阿羅斯等（ツヌガアラシト）―日本書紀

御間城天皇の世に、額に角有ひたる人、一つの船に乗りて、越国の笥飯浦に泊れり。故、其処を号けて角鹿と曰ふ。問ひて曰わく、「何の国の人ぞ」といふ。対へて曰さく、「意富加羅国の王の子、名は都怒我阿羅斯等。亦の名は于斯岐阿利叱智干岐と曰ふ。伝に日本国に聖皇有すと聞りて、帰化く。

アラシトは大伽耶国の王子と称し、「北海より廻りて、出雲国を経て此間に至れり」と申したとあります。笥飯は気比、角鹿は敦賀に成ったとされます。また、意富加羅国にいたころに次のような話があります。

もらい受けた白い石が美麗の乙女に変化し、妻にしようとしたところ、「東の方に向かった」というので、それを追って渡来したという。その乙女は難波の比売碁曾の社の神となった。

天之日矛（アメノヒボコ）―古事記、日本書紀では天日槍

是に天之日矛、その妻の遁げしことを聞きて、乃ち追ひ渡り来て、難波に至らむとせし間、その渡の神、塞へて入れざりき。故、更に還りて多遅摩国に泊てき。即ち其の国に留まりて、多遅摩の俣尾の女、名は前津見を娶して、生める子、多遅摩母呂須玖。

多遅摩は但馬のことで、出石神社には天之日矛が祀ってあります。この前段に、概略次のようにあり、天之日矛と都怒我阿羅斯等は同一人物であることをうかがわせます。

新羅の阿具沼のほとりで「賤しき女」に太陽が陰上に射し、その女は妊娠する。「賤しき夫」は女の生んだ赤玉を腰につけていた。新羅の王子天之日矛はその赤玉を贈られ床の辺に置いたところ、美麗の乙女となった。日矛はその乙女を妻としたが、ののしられた妻はひそかに難波に来たという。それが難波の比売碁曾社の神である。

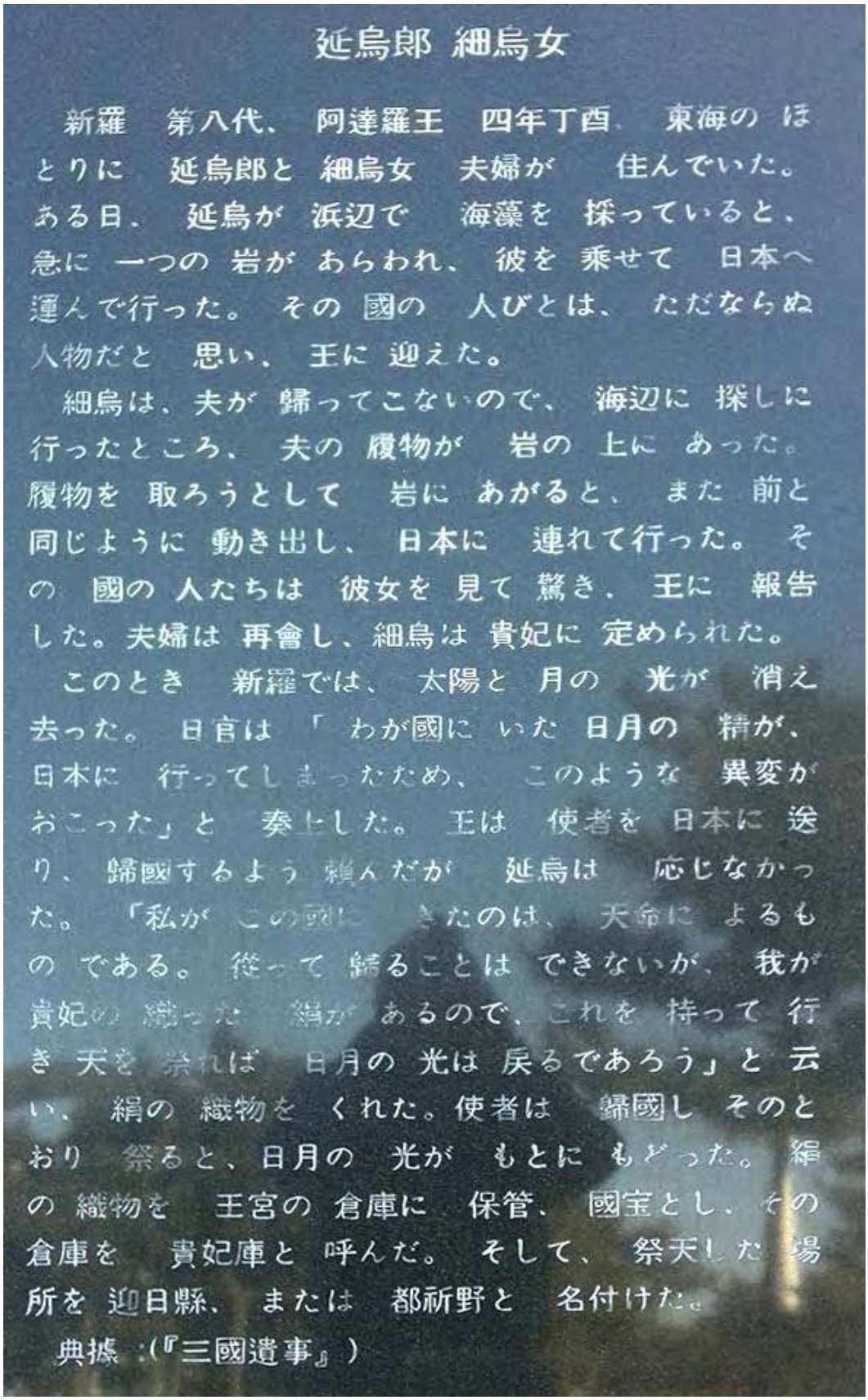
逃げた乙女は「私の祖の国に帰ります」と申したとありますし、また、既に前稿で紹介された新羅四代王の脱解王は、倭国の多婆那（丹波）から新羅に来たということですから、その当時の人びとの盛んな行き来を伝えるものです。そして、これらの話は、韓半島から渡り来たりし人びとの海路が、北九州ー瀬戸内だけでなく、北ツ海（日本海の古名）―出雲―越の国が存在していたことを示すものです。しかもこの海路は、玉の路であったとも考えられます。玉とは翡翠のことで、日本では糸魚川周辺が産地として知られ、縄文・弥生遺跡から発掘される勾玉の原石になったものであります。

さて、冷え込む早朝に我々が向かった迎日湾は、慶州の北東に位置し、この湾の東側の半島の先にある「虎尾串日の出公園」内にあります。この公園の名の由来は、韓半島を虎と見たときに尾の先にあるからです。

（写真一）虎に見える韓半島

（写真二）夫婦像

この日は晴天ながら強風が吹き荒れ、船出にはふさわしくありませんが、日本への旅の厳しさを想像させるものでした。この夫婦説話の主人公「延烏郎と細烏女」像は、この海に面して立っています。　この像の裏側には、この夫婦の説話が日本語でも刻まれている石碑が立っています。



（写真三）夫婦説話の日本語石碑

この説話においては、夫が先に旅立ち、妻がその後を追って倭国に辿り着いたとなっています。阿達羅王四年丁酉とは、西暦 157 年です。

今回この稿を書くにあたって、敦賀（気比神宮）、出石（出石神社）そして難波（比売碁曾神社）にまで足を延ばしてみました。
気比神宮境内には、式内摂社として角鹿神社があります。

（写真四）角鹿神社

（写真五）出石神社

（写真六）比売社

出石神社には比売社まであります。由緒書には、天之日矛が先進土木技術によって灌漑事業を行ったこと、鉄文化をもたらしたこと、及び、その子孫に神功皇后がおられる、とあります。
今は小さな境内となってしまった比売碁曾神社には、下照比売命として祀られています。

（写真七）比売碁曾神社

出石では、あの有名な出石皿そばを食してみました。その味はこの上なく美味でありましたが、たとえ筆が滑ったとしても天之日矛の神力のおかげであると書くわけにもいきません。その歴史経緯は、この稿の内容とは全く関係がありません。

（つづく）

［日本酒よもやま話　　第 4 話］

角打ち

檜原　勇多賀（37 年卒）

「角打ち」(かくうち)というのは酒屋のカウンターの隅で立ったまま酒を飲むことを言うが、この言葉は大阪では使わず主に東京や九州の博多辺りで使われている言葉らしい。

「角打ち」の言葉の由来は、本来「角打ち」とは升酒を飲むことで、升で酒を飲むとき、その角を口にあてて飲むことに由来する。 転じて、カウンターの角で酒を飲むから、「角打ち」と呼ぶようになった。

酒屋での立ち飲みといえば、今はあまり流行っていないが、昔は大企業の工場の正門前の酒屋では定時後にはいつも立ち飲み客で溢れていた。

昔はよく会社の正門近くの酒屋で一杯引っ掛けては連絡船で対岸に渡り、歓楽街に繰り出していた。 繰り出す前に酒屋で一杯引っ掛けるのには、ウオーミングアップの意味と時間調整の二つの理由があった。

また正門の近くには「だいご」という飲み屋が有り、残業をしていると会社の先輩から「第五(だいご)会議室に来い」とお誘いの電話がよく掛かってきた。

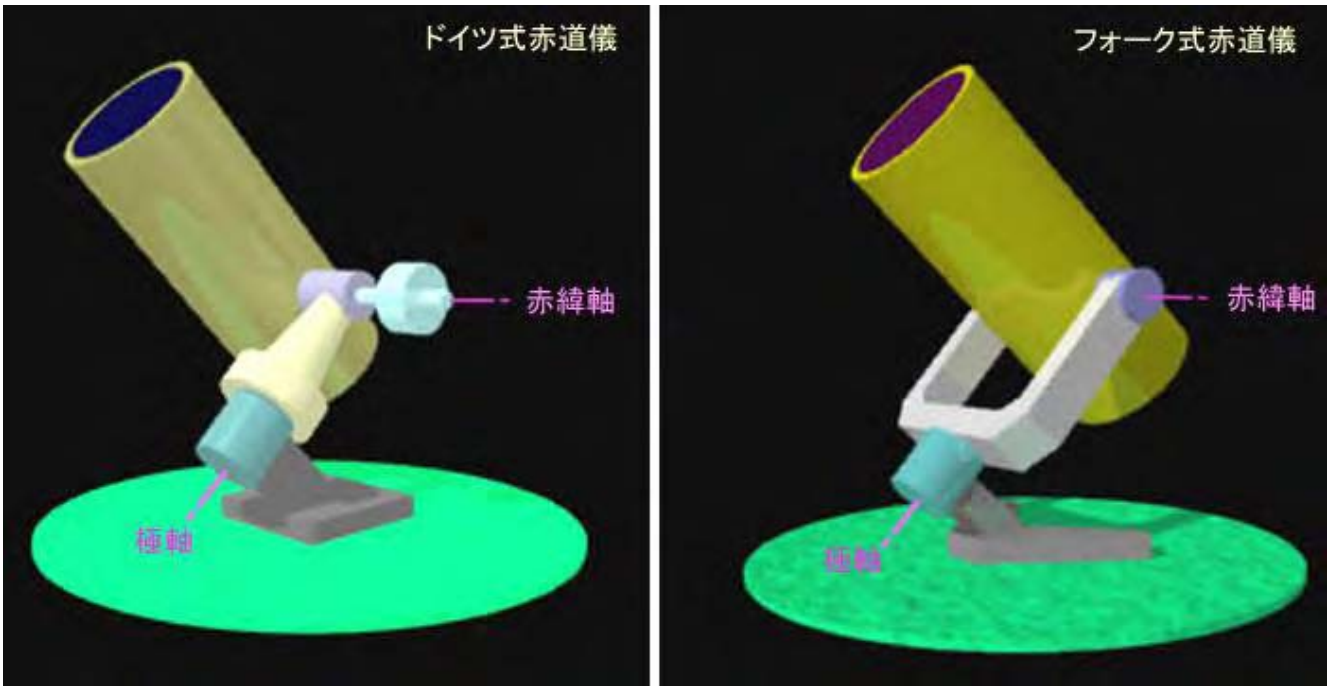
このような酒の付き合いの風習が最近廃れてきているのは悲しいことである。

（第４話　終わり）

天文趣味のすすめ　（その４）

西田信一郎（1980 年修士卒)

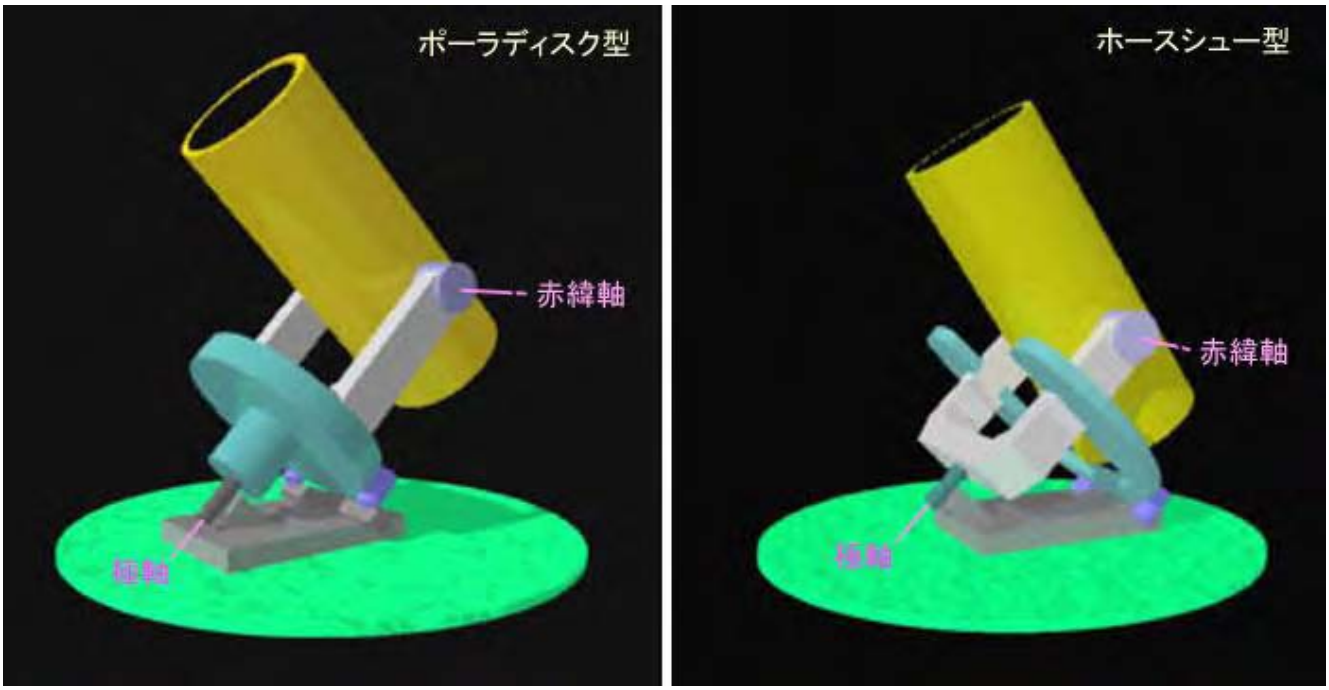
地上の観測者に対して、天球は１日に約３６１度回転します。これは、地球の自転による所謂日周運動ですが、意外に速く、望遠鏡で天体を眺めているときに追尾しないと、あっと言う間に天体が視野から逃げて外れてしまいます。この日周運動を地球の自転軸に平行な回転軸（極軸）周りの回転で追尾する架台が赤道儀です。天球のどの方向にも望遠鏡を向けられることが赤道儀に要求されるもう一つの機能であり、主要な形態として、ドイツ式とフォーク式があります（図１）。



日周運動の追尾動作は、１日に約１回転という超低速回転なので、駆動のためには減速機構の付加が必須であり、１段で大きな減速比が得られるウォーム・ホイールギア（図２）が使用される場合が殆どです。日周運動の追尾動作は、定速回転で良いので、ステッピングモータで容易に駆動できるのですが、長時間露光の天体撮影で要求される追尾精度は、角度の秒以下のオーダであり、ギアの歯面精度や芯出し精度には、極めて高い精度が要求されます。

テーパードローラベアリングを用いてシャフトを支持して芯ずれを極力防止し、ギアの歯研を行っても、追尾動作に周期的なずれ（ピリオディック・モーション）が残ってしまう

ため、市販の赤道儀でも、予め追尾ずれの周期的な変動パターンを記録しておき、モータの回転速度（パルス列）にフィードフォワードで補正を加える方式が採用されているものがあります。また、構造振動の励起も追尾ずれの要因となるため、マイクロステップ駆動や５相ステッピングモータの適用により、振動源となるモータのコギングトルクやトルク・リップルを極力低減する配慮がなされています。また、ウォーム・ホイールギアは負荷側からバックドライブできないギアですので、制動モードで使うとスティック・スリップによる自励振動を生じてしまうことが多いため、極軸周りの重力トルクのバランスには要注意であり、駆動の負荷トルクが増える方向に僅かにバランスを崩して使用（図３）した方が良好な追尾が行えます。



直径が大きく歯数の多いホイールギアほど、歯型の誤差の追尾誤差への影響は小さいのですが、そのようなホイールギアは、ひじょうに高価であり、重量も大きいため、最終段の減速をローラで行うフリクション・ローラ駆動方式を採る赤道儀もあります。

ポーラディスク型やホースシュー型（図４）の赤道儀では、極軸をローラで支持する形態となるため、この支持ローラを駆動ローラとして使用することも可能です。なお、ハワイ島のすばる望遠鏡の架台は赤道儀ではなく、経緯台であり、それだけでは日周運動追尾に於いて視野が回転するため、カメラを視線周りに回転する第３軸の回転機構が付加されています。このように、望遠鏡の架台は、単なる低速駆動架台ですが、機械工学的な「ものづくり」要素が満載なのです。

（つづく）

● 詳細はPDF版でご覧下さい。

１．未来投資に向けた官民対話（第５回）　　平成28年4月12日

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/index.html

第四次産業革命・イノベーション　　配布資料

資料１：出席者名簿

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou1.pdf

資料２：橋本氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou2.pdf

資料３：関山氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou3.pdf

資料４：金丸氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou4.pdf

資料５：上野氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou5.pdf

資料６：加藤氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou6.pdf

資料７：五神氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou7.pdf

資料８：榊原氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou8.pdf

資料９：三村氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou9.pdf

資料１０：小林氏提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/kanmin_taiwa/dai5/siryou10.pdf

２．産業構造審議会　製造産業分科会（第4回）　　平成28年3月29日

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/seizou/004_haifu.html

議　事

（１）　製造業をめぐる現状と課題への対応

（２）その他

座席表　http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/seizou/pdf/004_00_01.pdf

議事次第　http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/seizou/pdf/004_00_02.pdf

配布資料一覧　http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/seizou/pdf/004_00_03.pdf

委員名簿　http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/seizou/pdf/004_00_04.pdf

資料１　製造業をめぐる現状と課題への対応

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/seizou/pdf/004_01_00.pdf

３．情報通信技術が変える経済社会（2016 年 3 月 23 日発表）

“第４次産業革命”への備えを　-　ICT 戦略と国家戦略・経営戦略の深い統合を

http://www.jcer.or.jp/policy/concept2050.html　　日本経済研究センタ

http://www.jcer.or.jp/policy/pdf/160323_policy1.pdf

2015 年２月に公表した「経済社会の革命的変化への岐路に立つ日本―技術進歩と向き合う改革への覚悟を―」に続き、研究会での議論を取りまとめた。ＩＣＴ（情報通信技術）を製品・サービスの開発・提供、競争力向上の中核としてフル活用するため、ＩＣＴ戦略と企業戦略、そしてＩＣＴ戦略と国家戦略を統合することが「第４次産業革命」を乗り切る上で不可欠だ。

４．グローバル・トレンド（未来洞察データ集）　　平成 28 年 3 月 30 日

http://www.chubu.meti.go.jp/a51chosa/global_trends.html　　中部経済産業局

「グローバル・トレンド（未来洞察データ集）」は、エネルギートレンド、資源トレンド、経済トレンド、業界動向（自動車市場、航空機市場）などについて、各機関が公表している予測データをとりまとめております。　企業の皆様の時流に先んじた（環境変化を先取りする）経営戦略立案に幅広くご活用いただければ幸いです。

公表資料

グローバル・トレンド（未来洞察データ集）2016 年版（平成 28 年 3 月 30 日公表）

http://www.chubu.meti.go.jp/a51chosa/data/global_trends_2016.pdf

５．Global Tech Trends 2016. Innovating in the digital era

デロイトトーマツ

http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html

テクノロジーに大きな変革をもたらす事象への理解を深めるため、デロイトでは毎年 Global Tech Trends を発行しております。今回で 7 回目となる Tech Trends 2016 は、今後 1 年半～2 年の間にビジネスに大きなインパクトを与えるだろう 8 つのトレンドに焦点をあて、また各トレンドが計画・設計・導入される段階において企業内統制の立場からサイバーリスクをどう捉えておくべきか考察しております。

Tech Trends 2016 日本語版

http://www2.deloitte.com/content/dam/Deloitte/jp/Documents/technology/tsa/jp-tsa-tech-trends-2016.pdf

Contents

・IT 導入スピードの最適化とは

http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#2

・実用段階に来た拡張現実とバーチャルリアリティ

http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#3

・Internet of Things が価値を生むまで
http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#4
・基幹システム再創造
http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#5
・Autonomic platforms（自律型プラットフォーム）
http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#6
・ブロックチェーン：特定の権威に依らない「トラスト」の確立
http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#7
・アナリティクスの「産業化」
http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#8
・技術の飛躍的進歩がもたらす社会へのインパクト
http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#9
・（動画）Tech Trends 2016: Innovating in the Disital Era
http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/technology/articles/tsa/tech-trends-2016.html#10

６．2020 年までの IT ロードマップをとりまとめ　2016 年 03 月 17 日　野村総研

～ビジネスや社会へ影響を及ぼす重要技術はディープラーニングによる人工知能の進展がカギとなる～

http://www.nri.com/jp/news/2016/160317_1.aspx

株式会社野村総合研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役会長兼社長：嶋本　正、以下「NRI」）は、これからのビジネスや社会に広く普及し、さまざまな影響を及ぼすと考えられる重要技術が、2020 年までにどのように進展し実用化されるかを予測した「IT ロードマップ」※1 をとりまとめました。　今回、重要技術として取り上げたのは、「人工知能（AI）」、「IoT（Internet of Things）」、「ウェアラブルコンピューティング」、「カスタマー・エクスペリエンス」、「API エコノミー」、「FinTech」、「リテール Tech」、「デジタル・マーケティング」の 8 つです。

７．産業競争力会議　第 40 回　実行実現点検会合　配布資料

テーマ：データ駆動型経済、未来投資、フィンテック　　平成 28 年 3 月 31 日

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou.html

民間議員意見、関係省庁による現状施策説明

資料１：小林主査提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou1.pdf

資料２：三木谷議員提出資料

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou2.pdf

資料３：上田祐司氏提出資料（一社シェアリングエコノミー協会代表理事）

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou3.pdf

資料４：根来龍之氏提出資料（早稲田大学ビジネススクール ディレクター・教授）
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou4.pdf
資料５：内閣官房 IT 総合戦略室提出資料（シェアリングエコノミー関係）
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou5.pdf
資料６：経済産業省提出資料（シェアリングエコノミー関係）
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou6.pdf
資料７：内閣官房 IT 総合戦略室提出資料（IT 原則への転換関係）
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou7.pdf
資料８：内閣サイバーセキュリティセンター提出資料（サイバーセキュリティ関係）
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou8.pdf
資料９：経済産業省提出資料（サイバーセキュリティ関係）
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou9.pdf
資料１０：総務省提出資料（サイバーセキュリティ関係）
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou10.pdf
参考：第 27 回実行実現点検会合（平成 27 年 12 月 10 日） 小林主査提出資料
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/sankou1.pdf
資料１１：瀧俊雄氏（(株）マネーフォワード 取締役 Fintech 研究所長）提出資料
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou11.pdf
資料１２：金融庁提出資料（FinTech 関連施策について）
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou12.pdf
資料１３：経済産業省提出資料（Fintech(フィンテック)について）
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou13.pdf
資料１４：経済産業省提出資料（クレジットカード産業におけるデータ利活用に向けて）
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jjkaigou/dai40/siryou14.pdf

８．サイバーセキュリティ戦略本部　第７回会合（平成 28 年 3 月 31 日）

http://www.nisc.go.jp/conference/cs/index.html
報道発表資料　http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai07/pdf/07cs_press.pdf
サイバーセキュリティ人材育成総合強化方針
http://www.nisc.go.jp/active/kihon/pdf/jinzai_kyoka_hoshin.pdf
重要インフラの情報セキュリティ対策に係る第３次行動計画の見直しに向けたロードマップ　http://www.nisc.go.jp/active/infra/pdf/ciip_roadmap2016.pdf
議事次第
http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai07/pdf/07gijishidai.pdf
資料１　サイバーセキュリティ人材育成総合強化方針（案）
http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai07/pdf/07shiryou01.pdf

資料２　重要インフラの情報セキュリティ対策　第３次行動計画の見直しロードマップ（案）
http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai07/pdf/07shiryou02.pdf
資料３　2016 年「サイバーセキュリティ月間」結果報告
http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai07/pdf/07shiryou03.pdf

９．平成27年度製造基盤技術実態等調査（製造分野における IoT システムのセキュリティ対策に関する調査事業）報告書　　成28年3月　日立製作所
http://www.meti.go.jp/meti_lib/report/2016fy/000057.pdf
IoT 実装の有力な分野として検討が進められている製造分野を対象に、ハードウェア、ソフトウェア、データ、オペレータ等の IoT システムを構成する要素ごとに考えられるセキュリティリスクの洗い出しと具体的な対応策について、検討・整理する。

１０．AIの「人間超え」、その時トップ囲碁棋士は　　2016年3月19日
高尾紳路九段が見たシンギュラリティの風景　　日経ビジネスOnline
http://business.nikkeibp.co.jp/atcl/report/15/110879/031600283/
年3月、世界トッププレイヤーの1人、韓国の李世ドル（イ・セドル）九段が五番勝負でグーグル傘下企業のディープマインドが開発した人工知能（AI）「アルファ碁」に敗れたというニュースが世界中を駆け巡った。チェス、将棋など人類の知性の象徴とされてきたゲームで次々にAIによる「人間超え」が起きてきたが、「早くて10年後」とされてきた囲碁がここまで早く陥落することを予想する人はいなかった。　AIが人間を超える、シンギュラリティ（技術的特異点）。遅かれ早かれ、我々全員が直面する現実だ。正に今、囲碁棋士はその現実に向き合っている。そこには、どのような光景が広がっているのか。名人、本因坊など14回のタイトル獲得経験を持つ日本囲碁界のトップ棋士の1人、高尾紳路九段が緊急寄稿した。

１１．人工知能が囲碁トップ棋士に勝つ時代に考える　「知的職業」の未来
2016年3月16日　山崎元　DIAMOND Online
http://diamond.jp/articles/-/87970
韓国出身で近年の囲碁世界チャンピオンだったイ・セドル九段が、グーグルの系列会社が作ったAlphaGoというプログラムと戦って敗れた。5番勝負で最初に3連敗したのだ。

１２．ロボットは「同僚」になれるのか　　2016.3.17　日経ビジネスOnline
工場、介護、保育、接客…24年後の現場は？
http://business.nikkeibp.co.jp/atcl/opinion/15/221102/031400189/

人口減と高齢化に歯止めがかからない日本。現在の経済活動を維持するには人手が足りなくなる。日経ビジネス3月7日号スペシャルリポート「自動化専門家が断言　移民よりまずはロボット」でも取り上げたが、2040年には586万人分の労働力が不足すると予測されている。

１３．中国産業用ロボットの行方　　2016.03.07　三井物産戦略研
http://mitsui.mgssi.com/issues/report/d_r160307i_fujishiro.html

１４.「ユーザー企業のIT活用実態調査（2015年）　　2016.3.16　野村総研
～国内企業の「デジタル化」における課題は「組織の壁」～
http://www.nri.com/jp/news/2016/160316_1.aspx
株式会社野村総合研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役会長兼社長：嶋本 正、以下「NRI」）は、2015年12月に、国内企業におけるIT活用の実態を把握するためのアンケート調査を大手企業のCIO（最高情報責任者）またはそれに準じる役職者を対象に実施し、全業種にわたって501社から回答を得ました。NRIでは2003年から本調査を毎年行っており、今回で13回目となります。　今回の調査では、これまでのIT投資などの定点観測項目に、企業の「デジタル化*1」についての項目を新たに加えました。調査結果からは、国内企業が「デジタル化」を推進する上で必要としていることは、全社的な活用方針・活用戦略の策定、情報システム部門と事業部門とのコミュニケーションや協業の促進など、「組織の壁」を越える施策であることが明らかとなりました。

１５．情報通信業基本調査報告書　　H28.3　総務省情報通信国際戦略局
平成27年情報通信業基本調査（平成26年度実績）
http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/joho/result-2/h27/h27kakugaiyo.pdf

１６．総合科学技術・イノベーション会議　システム基盤技術検討会（第4回）
http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/haifu_system_04.html
議題
(1) 前回までの有識者ご意見
(2) サイバーセキュリティの取組について
(3) ＡＩＰの取組について
(4) 標準化の取組について
(5) 共通基盤について
(6) 論点整理
(7) その他
配布資料

資料１　前回までの有識者ご意見抜粋

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo1.pdf

資料２　「安全なＩｏＴシステムの創出」

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo2-1.pdf

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo2-2.pdf

資料３　「人工知能ビッグデータ IoT サイバーセキュリティ
統合プロジェクトに関する文部科学省の取組状況について」

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo3.pdf

資料４　「社会システムの国際標準化について」

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo4-1.pdf

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo4-2.pdf

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo4-3.pdf

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo4-4.pdf

資料５-１　ユースケースを通じた共通基盤の議論について

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo5-1.pdf

資料５-２　ユースケースの共通基盤項目検討結果一覧

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo5-2.pdf

資料５-３　有識者からのユースケース集計結果（提案価値を基準に再集計）

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo5-3.pdf

資料６　システム基盤技術検討会論点整理（案）

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo6.pdf

資料７　今後の予定

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/shiryo7.pdf

参考資料１　システム基盤技術検討会（第３回）議事録（案）

http://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/juyoukadai/system/4kai/sanko1.pdf

机上配布

第５期科学技術基本計画

科学技術イノベーション総合戦略２０１５

「基盤技術の推進の在り方に関する検討会」意見取りまとめ

アクションプランヒアリング関連資料

総合戦略２０１５並びに科学技術基本計画と対応する協議会、ＷＧ、
検討会及び分科会一覧

システム基盤技術検討会（第１回）資料一式

システム基盤技術検討会（第２回）資料一式

システム基盤技術検討会（第３回）資料一式

第 8 回京機会ゴルフカフェ開催報告

平成 28 年 4 月 19 日(火)に大阪府の新大阪ゴルフクラブで開催されました。

当日は素晴らしい好天に恵まれました。常連メンバーの 3 組 9 名参加で和気あいあいとプレーをし、プレー後はグローバルな近況報告と情報交換に話が弾みました。ダブルペリアの結果、優勝はベスグロ 88 で田中庸彦氏(1976 年)、2 位が久々出場の四柳茂氏(1974 年)、3 位が土肥祥司氏でした。グロススコアは 88-119 の間でした。

今秋の第 9 回京機会ゴルフカフェは
「日本最古の神戸ゴルフ倶楽部」で開催します。

日本最古のゴルフ場である神戸ゴルフ倶楽部は英国人貿易商グルームが六甲山上に創設し、1903 年 9 ホールでスタートしました。1904 年 18 ホールとなり、改造を重ねて 1929 年に概ね現在のコースレイアウトとなっています。コースは全長 4391 ヤード、パー61 で、パー5 はない山岳コース。距離は短くグリーンも小さく、グリーンを外した時は深いラフが待ち構えており、正確なショットとデリケートなピッチングショットが要求されるコースです。キャディーの負担を考慮して、クラブは 10 本以内に制限しているのですが、少ないクラブで考えながらプレーするのも楽しみの1つです。世界最古のセントアンドリュース GC と同様に各ホールには愛称が付けられており、例えばグルームが「パター一本で勝負しよう」と持ちかけた最長ホールの 15 番には Groom's Putt という名が冠せられており各ホールの歴史を辿る楽しみもあります。

今回、昭和 33 年卒業の野田忠吉氏のご紹介で日本最古のゴルフ場で、第 9 回京機会ゴルフカフェを開催できることとなりました。翌 11 月 5 日は京機会の総会を予定しており、他支部からの参加も歓迎します。

詳細は、下記 HP をご確認ください。受付は、5 月 12 日(木)より開始いたします。
先着 24 名で締切とさせていただきます。参加希望の方はお早めにお申込下さい。

http://www.keikikai.jp/shibu/kansai/cafe/cafe_golf.html

会員各位には、別途メールでもご案内させていただきます。